

さらば自虐史観！ 歴史観維新の時代来たる！

50余年の時代を越えて、いま爽やかに歴史を見直す一迅の風が吹く。
輝きを失くしていた若者たちの顔に、ふたたび希望の光がやどる…。
日本再生の烽火の只中、いま新たに知的衝撃の扉がひらく。



歴史思想界の最高権威たる「巨星」

故 田 中 正 明

歴史家 松井石根大将元秘書 日本歴史修正協議会最高顧問

明治44年生まれ。昭和8年、興亜学塾卒業。同年、アジア解放をめざす「大亜細亜協会」の機関誌編集者として勤務。インドのビハリー・ボースやプラタップ、“ビルマの父”オンサン、インドネシアのハッタ、“ベトナムの父”クオンデ、フィリピンのリカルテ將軍やラモス党首、その他多くのアジア独立運動の志士(指導者)たちを支援し、交流を深める。昭和11年、松井石根大将の秘書として、中国諸軍閥との和平交渉に同行し、蒋介石との和平合意の場に同席。昭和16年、大日本興亜同盟(アジア解放組織の連合体)設立に伴い、第5局(南洋担当)責任者に着任。同年、応召され中国へ赴兵。戦後は、南信時事新聞編集長就任。昭和23年に東京裁判によって無実の松井大将が処刑されたことに衝撃を受け、GHQに公表を禁じられたパール判決文を訳し決死の覚悟で保管。(昭和27年出版。)パール博士と最も深く親交をかわし、パール博士歓迎委員会事務局長をつとめ、パール下中記念館建設に尽力をつくす。拓殖大学講師・世界連邦建設同盟事務局長・(財)国際平和協会専務理事をつとめ、日本アラブ協会常任理事としてサダト大統領やアラファト議長とも面談。これらの活動とともに一貫して、自らの経験と豊富な知識とあふれる情熱を注いで自虐史観の是正運動を主導。東京裁判の欺瞞をあばき、パール判決書の普及につとめ、南京虐殺の虚構を反証し、偏向教科書の是正訴訟を起こし、名実ともに、日本の歴史見直し運動の最高指導者として戦後50年間に渡り、その先頭に立ち続けている。著書・著作は、実に数十冊にも及ぶが、現在でも入手できるものとしては「パール博士の日本無罪論(慧文社刊)」「アジア独立への道(展転社刊)」「南京事件の総括(謙光社刊)」「掃葉集(国民新聞社刊)」等、共著書としては「アジアに生きる大東亜戦争」「大東亜戦争の総括」(共に展転社刊)があり、最新著は「國、亡ぼす勿れ～私の遺言～(展転社刊)」。また、膨大な種類の小冊子を発行されているが、残部のあるものとしては「パール博士のことば」「平和甦る南京の写真特集」が必読。現在、ご高齢なるも精力的に連月多様な雑誌に評論文を発表されておられる、伝説的な歴史の生き証人にして、歴史思想界の頂点に立つ「巨星」。